高崎高校クロスデイ
～クロスカリキュラム公開授業・授業研究会～

１　目的

学際的な考え方により課題を解決する活動を実施することで、幅広い科学的素養を用いて課題を解決できる資質・能力をもつ生徒を育成する。その取り組みを県内外の教育関係者に普及する。

２　令和６年度　概要

（１）日程

12 月 19 日（木）　13：25～16：55

13：25～14：25　公開研究授業（2 クラス）

14：40～15：25　授業研究会

クロスカリキュラム説明

授業者説明・質疑応答

運営指導委員指導・助言

15：40～16：55　基調講演（田村学　氏）

（２）普及とその成果

ポスターを作成し、県内外への普及を行った。その結果、県内外の様々な方面の教育関係者（日本科学未来館職員、県内外の高等学校教諭、群馬県教育委員会指導主事等）約 60 名が参加した。

（３）当日内容

①　公開授業

	【公開授業①】 数学×音楽	【公開授業②】 物理×地理
授業者	今井・織田	金谷・高橋瑛
テーマ	倍音と三角関数	熊谷が最高気温になった理由
概　要	音楽における「倍音」について、数学の問 題として捉え、三角関数を用いて考察する。	熊谷で最高気温を記録した科学的メカニズムを地理的物理的要因の双方から考察し、探究の過程を用いて検証する。
運営指導委員	筑波大学 教学マネジメント室 准教授　田中正弘 氏	群馬大学 共同教育学部 教授　栗原淳一 氏

②　授業研究会

初めに本校のクロスカリキュラム概要説明のオンライン配信を行った。授業研究会は、２会場に分かれ、授業者の説明→質疑・応答→運営指導委員指導・助言の順で実施した。

③　基調講演

文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田村学氏に「主体的・対話的で深い学びと探究」と題し、子どもたちの学びにおける探究活動の重要性や学校全体を包括したカリキュラムマネジメントの在り方など、今後の教育の方向性について、講演していただいた。

３　令和７年度　概要

（１）日程

12 月 16 日（火）　13：25～16：55

12：55～13：55　公開研究授業（2 クラス）

14：15～15：10　授業研究会

クロスカリキュラム説明

授業者説明・質疑応答

運営指導委員指導・助言

15：25～16：35　基調講演（白水 始 氏）

（２）普及とその成果

ポスターを作成し、県内外への普及を行った。その結果、県内外の様々な方面の教育関係者（県内外の高等学校教諭、群馬県教育委員会指導主事等）約 50 名が参加した。

（３）当日内容

①　公開授業

公開授業の詳細は右に掲載した。

②　授業研究会

初めに本校のクロスカリキュラム概要説明のオンライン配信を行った。授業研究会は、２会場に分かれ、授業者の説明→質疑・応答→運営指導委員指導・助言の順で実施した。

③　基調講演

国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 部長 白水始 氏に「教科横断的な授業デザインとカリキュラムマネジメント～次期学習指導要領を見据えて～」と題し、講演していただいた。

	【公開授業①】 体育×数学	【公開授業②】 英語×理科（×国語）
授業者	稲垣・小澤・岡田一	一場・飯野
テーマ	50m走と最も相関の強い種目は？	パラグラフライティング
概　要	新体力テストの種目を実施・計測し、相関係数を用いて50m走と最も相関の強い種目について考察する。	小論文、英文、科学論文を例にパラグラフライティング、リーディングを横断的に学ぶ。
運営指導委員	群馬大学共同教育学部 教授　栗原淳一	筑波大学 准教授　田中正弘 氏

４　成果と課題

本事業には県内外から多くの教育関係者が参加し、クロスカリキュラムの実践成果を広く普及することができた。文部科学省や国立教育政策研究所の講師による基調講演は、教育行政の最新動向を県全体で共有する貴重な機会となった。授業研究会で専門的な指導・助言を得る形式は、授業改善において極めて有効である。

一方で、本事業での公開授業が２件に留まっている点は課題である。今後は公開件数を拡充し、より多角的な実践事例を提示していく体制づくりが求められる。